

2025年3月

青空機械新聞

業界ニュースとトレンド紹介

発行
第7号

2025年春

今年も早くも2カ月が過ぎ、3月に入り三寒四温、春が近づいているなと実感しております。

私事ですが、2年に1度開催される台湾最大の工作機械見本市の『TIMTOS2025』を視察してまいりました。別報で展示会レポートをお届けする予定です。

日本国内受注数字

2025年1月受注額：約320億円

※鍛圧・板金機械は含まず。

前月比**19.9%減**、前年同月比**4.6%増**となりました。

建機関連が前月比約**2.7倍**と大きな伸びを見せたものの、金型・精密機械を除くほぼ全ての業種で前月比マイナスとなりました。また、自動車関連の受注が前月比で**30%強**、航空機関連で**30%弱**の落ち込みを記録しましたが、これは前月の大きな受注からの反動と考えられ、特に航空機関連に関しては前年同月比で見ると**150%以上**の数字であり、復調基調にあると見ております。

全体的に前月からの反動による落ち込み、1月の正月明けという季節的要因が受注減に繋がったと考えております。

次回の受注報告は2025年4月中旬予定です

2025年 米国工作機械受注のスタートは!?

トランプ大統領就任後、初の受注報告です。

2025年1月米国機械受注額
\$357.3million(約529億円／
\$1=¥148換算)
前月比**29.8%減**、前年同月比**+5.7%**となりました。

1月の米国国内の工作機械受注は日本市場同様、前月比で大きく減少しましたが、1年で最も数字が上がる12月からの反動要因が大きく、衝撃的に見えますが、1月の単体数字としては2022年以来の最高額であり、過去の1月の平均よりも**16.2%**高い数字となっております。

工作機械業界の最大の顧客である鉄工所(ジョブショップ)からの受注が前月比で**3分の1**まで急減、航空機関連も前月の**ほぼ半分**の水準に落ち込み、自動車関連は前月の**ほぼ3分の2**にとどまりました。しかしながら、航空機関連に関しては前年同月比**+11%**、生産量も増加いたしました。

一方、医療機器分野では2023年9月以来の最高額を記録しました。



TIMTOS2025会場でたまたま会った知り合いの
米国機械ディーラー社長ビルさんとの写真

今回訪れたTIMTOS2025では知り合いの米国工作機械ディーラー社長のビルさん、ビルさんと一緒に訪問していた米国日鉄物産／機械部の荒川部長と偶然会い、米国市場について色々とお話を聞くことができました。

1月の米国での工作機械販売については、トランプ大統領就任後の様子見の感じが強く、大きく動くのは今年の夏ごろではないかとの見解が広がっているとの事です。トランプ大統領の評価を尋ねたところ、回答するには時期尚早との答えにとどまりました。

2025年2月 米国自動車販売台数(新車)

2025年2月米国新車販売台数は前年同月比**2.3%減**の**122万1,863台**でした。2月の営業日数が前年同月より1日少ない24日だったことも影響し、2月は5カ月ぶりに前年同月比マイナスとなりました。

3月4日に発動されたカナダとメキシコへの25%の追加関税は自動車業界への影響が必至であり、両国のいずれかに生産拠点を構える自動車メーカー(GM、フォード、ステランティス、トヨタ、ホンダ、日産、

発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械(あおぞらきかい)

代表者：青木 佑典(あおき ゆうすけ)

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：contact@bsmt.co.jp

マツダ、BMW、VWグループ、現代グループ等)や部品供給で自動車生産を支えるサプライヤーは、関係国間の妥結に向けた交渉が長引く場合は、生産移管を含めた厳しい判断が求められることになります。米国販売車に占めるメキシコからの輸入車比率が高いGM、日産、マツダなどは影響の大きさが懸念されます。

また、電気自動車(EV)に対する連邦税額控除が廃止されれば、EV需要を押し下げるだけでなく、既に在庫状況が厳しいハイブリッド車(HV)への需要が高まることも予想されます。

米国の2月初旬の総在庫台数は295万台でした。2025年1月末のブランド別在庫日数では、リンカーン142日、フォード101日、ジープとダッジが95日、ラムとブイックが90日で在庫が多めとなっていました。一方、日系ブランドではトヨタ30日、レクサス27日、ホンダ55日、日産68日、スバル46日、マツダ53日、三菱44日でした。好調な販売が続いている韓国ブランドでは現代69日、ジェネシス70日、起亜49日でした。(マークラインズより)

重切削加工の為に立形マシニングセンターのご紹介



TAKUMI社 高剛性立形マシニングセンター
Vシリーズ

当社が取り扱いを開始した台湾のマシニングセンターメーカー**TAKUMI社**のベストセラー機である『Vシリーズ』をご紹介します。

同社は1988年にある日本メーカーのOEM供給元として誕生し、日本メーカーより技術供与を受けてまいりました。同社の名前である『匠』の由来はこの経緯から付けられました。

TAKUMI社の製品は精度を最優先に生産されており、世界中で高精度部品、高精度金型の加工に使われています。

現在は自社ブランドでの販売にこだわり、日系・欧州メーカーから何度もOEM供給依頼の話がありましたが、今も断り続けております。

型式：V11

制御装置：FANUC or 三菱 (いずれも15"スクリーン)

テーブルサイズ：1100×660mm

各軸ストローク(X/Y/Z)：1100/660/610mm

テーブル最大積載重量：1100kg

主軸端形状：BT50(ギヤ駆動)

主軸回転数：8000rpm

主軸最大トルク：665.4N・m(FANUC)

539.5N・m(三菱)

ATC：24本(標準)、32本(OP)

軸案内面：各軸角形すべりガイド

価格：1,790万円(税別)～

備考：納入後1年間保証、運賃据付費用(新潟県)、簡易操作指導込み。

詳細仕様はお問合せください。

現在、3台限定のモニター特別価格をご用意しております。

補助金、その他機械設備に関してご質問等がございましたら、当社までお問合せください。

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

E-mail：aoki@bsmt.co.jp

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満38歳)
2009年 (株)兼松KGK 入社
2010年
↓ 同社新潟営業所勤務
2016年
2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社
2017年
↓ 日鉄物産(株) 米国法人出向
2020年
2021年 ユアサ商事(株) 入社
↓ 同社新潟支店勤務
2024年